無竹孝子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

面塔の僧侶[illegible]位所なる武蔵坊

弁慶[illegible]はば梅も[illegible]君判官殿を

[illegible]朝の御代官とし[illegible]家を

[illegible]ひ[illegible]先者の[illegible]中

日月[illegible]

ばひとへなる衣の袖云にまわ
ぼ中ゝより殺人すぎぬるもの口惜
次才まうはべ能きたる郡郡司の
礼をおもむけひ一まで郡を
はひりさあはるる西国のうえ
はを下向あるのこはる誤まなきと殺生
はを数をへきさあ月数をこめ

ぬるはの国
尼崎大物の浦へ急人　はを
文治乃はめはこ
不公務より現後原　力剛く
郡家
おなを郡をおもうこうはなきく
剛ぬ里さ秀よ西国の方へと
さうを孫さ　立所　まを衣あくも

雲井乃月出汐も惜き哉乃名残
ひとしきを平家追討の縁出よは
引かへて昨日十年人にしく哉
さもうとしぬともかたの
下音
上里下留や雲水乃身はさためなき
ならひなしひの哉 上音 世中の人を
なにとも石清水く澄濁るをハ

神そしるらんと高きみかけを
ふしおかみゆけは程なく旅心
潮も浪もともにひく大物乃浦に
着にけりく 早詞 急候ほとに
是ハ早大物乃浦に着候
某存知の者候ハる宿乃事を
申付うするまて候 先々御座の

あるじの四つわらわ　牡言　旅ゆく
ほ入くう　以　ゆ世さ　ま　ほ
梅咲くいはの山のたゆの乃山出ま
くう　小さんは　郎君を先さほ行
ゆ　てんぼ宿をやくう　見ては
ぞくたおくのまん御座くう
ほ勇んの乃さとゆほくう行やはく

思ひきくう　以下詞　小ひう君へ
ゆ　とはがをう被多さゆさとまく
くう　とゆとぶをしく部ハほ行と
ひくゆてはひ乃折袋なる時
やまゆ　あくゆやまゆほ座
くうあつり被先まわほ西
あきくとなる人　判定　ともくも

弁殿のらひ給へ（ワキ）／是てよどうふ
山原乃まるゝ靜の法のいのり君
ゝわの法使ふ武義の参わてゝ
（ミテ）／やさし殿とあゝ思ひよりしやや
ぼ乃ゝあの法ゝひまゝゝ
（半）／さ是ゝ法ゝ法るゝ御所使
あゝ法ゝ君の法ゝ所も法ゝ乃

法楽まこうへひくも神めゝは
ぞゝわなゝたゝたゝいまあゝぬ
やうふゝへさゝ祇ゝわ法ゝ是
あまゝの法ゝまゝは（ミテ）／ゝ祇ゝ
思ひもゝぬ形わゝ法ゝ法く
まゝも御法とゝ思ひ
（ヨカル）ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ法ゝへゝゝ人乃

ゝまかせうずるなりやは　上詞＼さて
御座遷事を度なきまじやくへきさう
下詞＼かくて御供申君の御太子に
なわぐりしとまわはへし
ワキ＼慈きうとくしやは御とまで
あはりの受ようまは　上＼離く
も弱な迷深ひるまで是ハ武蔵殿乃

御たうしひ思ひ人雑よがくへ
叙か直小御座遷事をやは遁し
上＼う疵いともくもちちかひ
まてはづうは御案里なへりまで
中上人さうほのあ御案里までは
判官＼いかり小志流くかゞ度ももう流も
旅人となわかち下添とくもか小

[illegible]
[illegible]くも神めなわ玉なら
[illegible]の波濤をしら[illegible]
[illegible]へ[illegible]ば[illegible]
上皇御[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]なき武[illegible]

[illegible]
[illegible]
西[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

舟路乃門出なり　波風も
静をとゞめぬ袖ふりかへし涙を
なかし遊ふしの袖ぞまきて
かりしーとぞ思はし手も
さゝためあやまりて別れよわ
まさりて惜き命な君に二度
あはんとぞおもふ行末

判官「いかに弁慶静に酒をすゝめ候へ
ワキ「畏て候げに實に是は門出の酒
千代をとほく祝ふ色静にいうのろ
いゝめ宴ま　妾はいもきみの
御わかれやる方なさにかき
くれて涙にせきふさかりなり
ワキ詞「いやく是は苦しからぬ旅の

舩路のつ出乃和哥吹一さし光
行ゝせまで雲時志ぐは立
ありし時乃調子を取あへび渡
口の郷舩ハ風まにまゆきさ流
渡頭乃橋に冬ねりまじてみ遊
こゝ楫よ名かしのなめさき秋人
たちすふへくもあらぬ方の

袖打ふるも舩りしや待へや
陶朱公ハ勾践を伴ひ会稽
山にこもり居て種々乃智略を
めぐらし遂に呉王を亡ほして
勾践の本意をとげさすとかや
志のはよ勾践を二度世をとわ
会稽乃恥を雪すしも陶朱功を

なにとやさらん越乃臣下まゐて
ましはかりとなりてあさ切ぬ
とかくたちとゞめ心のとゞかなは
へ袋を切ぬるとおもへはから
天のはらからにて小船にさきは
さして西海乃遠浪をあさ世
上
かし乍ためしもあ乃はなる

三
これをおもひそて南海乃波濤に
なをもうきなるの舞なき西哉
なにとして我もさのいはは
なひく東板乃みえをつりぬる
皆時雲なるへき持ーたへ
上
見宣た時め
たいへ懸めきるめちう
りうおぜしもくを乱世中に

あらんかぎりは〽かく尊詠の
偽なくは かく尊詠の偽りなくは
やがて御代に出舟乃
船子どもはやともつなを
とく〳〵すゝめ申せは判官も
旅のやとりを出給へは
〽静はなく〳〵ゑぼしひたゝれ
ぬきすてゝ涙にむせぶ御袂
見るめもあはれなりけり〳〵

ワキ詞
〽静乃は心中さつし申て候
御船を出さうするにて候

アヤカヽリ
〽いかに申候〽何事そ
〽君くわおは旅中ほどでは波風
あらく候程に御逗留とおほせ候へ

出さるとは　外なる光景に逗留と
なや　主人　是は旅屋に
ぞ御ふかい為なれを情ゝ有て
ば逗留と存ればこそ先達思寄有ば
御　流　うへ　ぐ　こ　ふ　ば　ち　ま　ゆ　く
加様乃事ハ　ば　ち　事　も　ば　ど　ま　ふ　と
為ぐ　ぞ　上　一　通　液　色　補　な　出

時ハ秋の大風吹　ど　君　ば　無　浅
出　平　家　を　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ま
ど　も　ば　ま　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば
ば　永　を　出　ば　色　ば　ば　ば　ば　ば
ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば
ま　ま　ま　ま　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば
ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば
ば　な　ば　乃　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば
ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば
ば　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば
ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば　ば

（ノ九）ばきてうみたるなうばいたり業風

（ソキ詞）すゝきうしやの風のくりたてはゝ

ずの乃武海山おゝ波の極楽至りゝ

嶽くわがゝおろ仏の荒まばは船の

極地ゝ浦くつきやまもなゝ

ごゝ那くゝ心中ゝ浦新怎ゝ

（アヤカシ）ゝゝ小世さゝものばは海中は

あやゝしゝゝ付ゝはは　（羊）おゝ強く

ごゝやゝうゝ付ゝをゝ船中ゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

海上をみまは西國ゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

平家乃一門ぞのゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たるゝやゝ風（詞）時義をゝゝゝゝ

てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

判官
〽いかに小弁参　ワキ〽御前に候　〽さて
おとろくへからすたとひ悪霊
恨ミをなすともそも何ことの有
るへき悪逆無道の其つもり
神明仏陀の冥感にそむき
天命にしつミし平氏の一類
主上をはしめ奉り一門の月卿
雲霞のことく浪にうかひて
見えたるそや　〽抑是は桓武
天皇九代の後胤平の知盛幽霊
詞
あらめつらしや　いかに義経
思ひもよらぬ浦浪の　〽あな
しるへに出船の　〽知盛か
沈ミし其有様に　〽又義経をも

りうんに流め世ぞ越ては渡に浮
へ扇長刀えなれし色浪の路
あさつきを掛ひがし海をけ角て
悪風を吹のけ眼もくらみ凡心も
見まそ前後を忘ひかりかなわ
判官下
君とふ義経がもさりひく
ずからも我ぬきもちう涙乃人ふ

世りふりちちね玄義をかけし
たくしひ鉢く大弁季なし瑠て
下
すらも我わそけふまし候
数珠さら〳〵と押もんで東方
降三世南方軍荼利夜叉西方大
威徳北方金剛夜叉明王中央大
聖不動明王のさとくふのけて

ばかりにて此ら
まことに次第
少し後れて神
こそ弁慶の所に小
ちゝをありをば
こゝにて清水なる
何よりは猶怨霊
きるを逆拠
引摺り逆ら
ゆら神なりまを
まことに